

海外での教育

渡航から帰国までの、アメリカ・カナダでの日本の子どもの教育



北米の日本人の子ども、何人くらい？

外務省の海外在留邦人子女数統計（長期滞在者）より

海外に長期滞在（永住を除く）する、日本人の義務教育年齢にある子どもの人数（2009年4月15日現在）の調査結果が、外務省から発表されました。

世界と北米の子どもの数の変化の様子を見るために、北米の結果と合わせて、過去5年間の人数と変化率を下の表にまとめてみました。

年度	世界		北米	
	総計（人）	変化率	総計（人）	変化率
2004年	54,148	---	20,659	---
2005年	55,566	2.6%	18,445	-10.7%
2006年	58,304	4.9%	20,218	9.6%
2007年	59,109	1.4%	19,443	-3.8%
2008年	61,252	3.6%	21,045	8.2%
2009年	61,488	0.4%	21,493	2.1%

この表から、海外に長期滞在している義務教育段階の子どもの数は世界中で61,488人で、昨年度より236人増えており、これまでで最高になりました。

変化の傾向を見てみると、世界では、昨年から増加率は0.4%に止まりほとんど変化はありませんでした。

北米の子どもの数は、昨年から448人（2%）増えて21,493人となり、これまで最高となりました。5年前（2004年）と比べると3.8%の増加です。増減はあるものに、徐々に増えています。

ちなみに、今年の調査結果を地域別に見ると、北米・欧州・中東・中南米・アフリカで増加し、アジア・大洋州地域では減少しています。

北米の子どもの分布の様子を見るために、今回の調査結果の北米の在外公館の管轄区域別の子どもの数を、人数の多い管轄公館順に、右のページの表に示しました。小・中と、学校の違いによる人数の割合も示しました。

ここで紹介した調査結果を参考に、北米の子ども達の実態を見てみましょう。

どこに、何人くらい？

外務省の在外公館は大都市や日本人の多い地区を中心に設置され、管轄区域が決められています。アメリカとカナダの23管轄区域の子ども達の数の分布が右の表からわかります。

アメリカでは東西の海岸沿い、さらに中西部の大都市を中心に広い範囲に住んでいます。アメリカの上位5都市にはそれぞれ2千人以上、全米の約半数が集中して住んでいます。そして、残りの半数は全米に広がっています。

カナダでも、その数はアメリカの約5%に過ぎませんが、東西海岸に近い地域にまとまっています。

そして、学齢での比率は、どちらの国でも、小学生3人に中学生1人となっています。

どこで勉強してる？

日本人学校・補習授業校・その他に分類された、児童生徒の数が示されています。（注1）

日本人学校で学んでいる小中学生は2%にしか過ぎません。残りの子どもの約半数は現地校で学びながら補習校で日本語での学習を続けています。「その他」に分類された残りの半数の子ども達は、現地校だけあるいは私立在外教育施設（注2）に通学するか、全く就学していません。このうち、私立在外教育施設では約150人の小中学生が学んでいます。不就学者の数は、この調査結果には示されていませんが、ごく少数だと思われるので、「その他」のほとんどが現地校のみにで学んでいることになります。

ただし、「その他」の中には、大都市で見られるような、補習校の代わりに塾や学習教室で学んでいる子どもが含まれています。